

NAIS Journal Vol.16

発刊に際して

一般社団法人日本応用情報学会会長

高 弘 昇

京都情報大学院大学 教授



現代社会は我々が気づかないうちにコンピュータとインターネットを通じて実時間で数多いデータと情報を生み出し、IT 関連技術とデータの分析技法を活用してあらゆる分野で発生されている多様な問題を解決しようとしています。また、情報通信ネットワーク速度の高速化と情報端末機の多様化によりインターネット上のビジネス環境だけではなく産業分野の環境に迫ってきた急激な変化に対処しなければならない状況に置かれています。即ち、現在の情報化社会は変化の環境における適用・応用関連情報をうまく取りあげて分析できる能力が要求されています。言い換えれば、データ及び情報分析における力量を基に多様な社会変化を理解して問題に対する解決策を見つけて実行する創意的で革新的な思考ができる未来志向的な力量を備える必要があります。このような未来志向的な力量は最近、Python や R などの分析ツールを利用したビックデータ分析に対する熱い関心を見ると、今後の情報化時代の多様な分野において社会的価値の創出と実践として問題の解決に寄与できると考えられます。

世界の経済に莫大な損害をもたらした新型コロナウイルス環境においても IT 技術革新は持続的に早い速度で行われており、情報化社会に必要なアプリケーションを次々と作り出しています。特に、情報化社会では誰もが何時でも何処でも多様な情報にアクセス可能な環境の下で人々が安全で安心して暮らしていけるように情報応用技術の展開が要求されています。また、未来志向的な情報化社会に対する IT 応用技術の開発に関する感性を身に着け、多様に発生してくる各種の問題に対し正確に対処できる能力も備えるべきであります。

ビジネス環境に影響を及ぼしている IT 関連技術、特にデータサイエンス (Data Science)、人工知能 (Artificial Intelligence; AI)、IoT (Internet of Things) などは第 4 次産業革命に沿って互いに密接に関連しながら大きなビジネス効果を生み出

し、産業界に幅広く貢献していることから大きく注目されています。その反面、このような IT 関連技術は激しいビジネス競争環境を作り出していることから、競争優位に立つための関連人材の確保、関連 IT 技術の確保、関連ビジネス情報の獲得などが必要になっている企業はその対応に追われています。産業構造が製造業からソフトウェア・サービス産業に移行しており、情報関連の応用分野は急速に拡大しているが必要な人材は大きく不足しています。多様化された情報環境に対応できる核心人材を育成するためには応用面での実践的な情報関連訓練に重点を置いた教育を展開する必要があります。

一般社団法人日本応用情報学会（Nippon Applied Informatics Society; NAIS）は社会の各分野で適用・応用されていく IT 関連技術の発展のため、日本国内で専門誌 NAIS Journal の発行、IT 関連研究会・セミナー開催などの多様な活動展開を通じて応用情報技術の普及に渾身の力を込めるだけでなく、実学志向的な実践団体の産学学会としてその役割を果たしてきました。共に、日本応用情報学会は、実務系団体と緊密な連携を持ちながらデータ分析を中心にしたデータサイエンス関連などの技術開発活動を行い、グローバルビジネス環境において企業が必要とする人材の育成に力を入れてきました。また、情報技術を取り巻くビジネス環境に役立つ有用な情報を関係研究者、産業界の技術者などに発信すると同時に、産学専門家が研究開発し実装した成果物を関係する多くの人々に示す場を提供するため、専門誌である NAIS Journal を産業界に積極的により幅広くオープン化して発刊しています。

日本応用情報学会はこれからも産学学会として各分野における実学志向的な応用情報技術に関わる多様な活動の内容及び成果物を多くの関係者にウェブサイトと NAIS Journal などを通じて発信し、有効的に共有していきます。また、研究・実践活動で発生しうる様々な応用情報技術課題に対応可能な関連情報を積極的に発信し続けていきたいと考えています。

今後も日本応用情報学会は応用情報技術により急速に変わり続ける厳しいビジネス環境において、企業が必要な競争力を基に持続的な成長ができるようにデータサイエンス、人工知能、第 4 次産業革命に関わる人材育成、応用情報システムの研究、開発及び実践に積極的に貢献していきたいと考えています。